令和3年度　　学校評価書

東温市立西谷小学校
令和4年2月8日

1　学校の教育目標　　心豊かにたくましく生きるにしだにっ子の育成
2　経営の基本方針　　健康で明るく主体的に学ぶ児童の育成

	評価項目		評価の観点	評価（４段階） 教職員	児童	保護者	考察及び改善方策（○:考察、●：改善方策）	学校関係者評価委員の評価
生徒指導	**いじめ・不登校への対応**	1	**生徒指導体制づくりを行い、アンケートや教育相談、家庭との連携等をもとに、児童の心の状態の把握に努め指導に生かした。**	3.6	3.5	3.7	○　No.1の「児童の心の状態の把握に努め指導に生かした」の項目は、概ね評価が高かった。小規模校の特性を生かし、全教職員が連携を図りながら児童の様子をしっかり見取ったり、家庭とも連絡を密にしたりして、協力体制を整えながら対応したことが、高評価につながったものと考える。 ○　昨年はコロナ禍の影響で満足に体験活動を行うことができなかったが、マラソン練習などの体育活動や学習発表会の練習等を中心に、一人一人が踏ん張り、真剣に取り組むことができた。各活動を通し、何事も粘り強くやり遂げることの大切さについて指導をすることができた。 ●　感染対策の観点から挨拶の声の大きさについては様々な捉え方があるが、挨拶をすることの意義を伝え、お世話になっている方々にしっかりと気持ちを伝えることの大切さ、また、規則正しく生活し、自律的に自身を伸ばしていくことの大切さについて継続して指導していきたい。	○　コロナ禍で活動が限られている中、できる範囲で体験活動を取り入れていただいているのはありがたい。子どもたちにとって大切な活動が失われるのは苦しい。 ○　朝の挨拶指導について、指導するよりまず率先して大人も挨拶をお願いしたい。
	基本的生活習慣の定着	2	挨拶指導の継続、月目標の実践化、即時対応を心掛け、児童の基本的生活習慣の定着に努めた。	3.6	3.4	3.5		
	逃げずに踏んばる態度の育成	3	**多様な体験活動や根気強くやり遂げる経験を通して、逃げずに踏ん張る態度を育てるよう取り組んだ。**	3.3	3.5	3.6		
確かな学力を育てる教育	**基礎・基本の定着**	4	**学習形態や教具等の工夫、学習習慣づくりを行い、全員が活動して分かる場を設定した。**	3.4	3.4	3.2	○　No.6「問題解決的な学習や体験活動を展開」については、昨年度より教職員の評価は上がった。コロナ禍の影響を受けず、計画通り授業を展開することができたことで、少人数の特性を生かした個に応じた学習支援、小グループ等の形態を活用した練り合いや体験活動を少しずつ実践することができた。 ●　No.5「家庭学習の充実」については、昨年度同様に保護者の評価が低い。引き続き家庭と連携を図りながら、効果的に学習できるように課題を選定したり、実践の評価を工夫したりするなどしていきたい。 ●　No.7の「間違いの多い問題をする」については、児童の評価が少し低い。授業を進めていく中で、学び直しや復習の時間を確保できるように単元計画を見直したり、引き続き個別に支援をする体制を整えたりするなど、全ての児童の学力の定着に向けて努めていきたい。 ●　「確かな学力を育てる教育」の推進については、他領域に比べて評価数値が低めの結果となった。また、全国学力学習状況調査の結果においても全国平均値を下回る教科が見られたり、児童によって学習環境においての格差が見受けられたりする。この状況を学校として真摯に受け止め、来年度に向けて改善する手立てを組織的に考えていく必要がある。	○　「学力の定着・向上」という項目に関して、昨年度も今年度も児童の評価が少し低めなのが気になる。それぞれ家庭環境も違い、学習への取り組み方も違うかもしれないが、個々の状況をできるだけ把握し、子どもたちが自らの進歩を実感できるようなきめ細かい指導を期待する。 ○　学力向上推進について、児童も保護者も評価が低い。これだけでは、宿題が多いのか少なく物足りないのか分からないが、児童はゲーム時間が欲しい。保護者はもっと勉強して欲しいというところだと思う。 ○　「確かな学力を育てる教育」の項目で総じて保護者の評価が低い。これは保護者の期待値が高いことの表れと思う。特に№6の「家庭学習の充実」が低い。工夫が必要だと思う。
	家庭学習の充実	5	家庭学習の実施状況の把握、宿題の内容の検討、自主勉強の奨励、家庭との連携、個別の対応等により、家庭学習の充実を図った。	3.3	3.2	3.0		
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	6	問題解決的な学習や体験活動を展開し、学ぶ力を高めるよう取り組んだ。	3.6	3.3	3.3		
	学力向上推進	7	間違いの多かった問題に類似した問題を準備して、繰り返し学習させ、学力の定着に努めた。	3.4	3.1	3.2		
豊かな心と健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	8	教育活動全体と道徳の時間の関連を図る年間の計画をもとに、自己の生き方を見つめさせたり、家庭と連携を図ったりしてよりよく生きる態度を養った。	3.3	3.6	3.7	○　No.10にある「元気モリモリ貯金」は本校が伝統的に取り組んでいる活動である。健康で元気になる項目を設定し、１週間を終えた後、自分の取組に対して評価を行い、元気の貯金を貯めるようにしている。少しずつ取組への意識の高さに個人差が見られるという課題があるものの、子どもたちに健康に対しての意識を高く持たせることができている。 ●　No.9の「よりよい集団づくり」については、児童、保護者の評価が高い。しかしコミュニケーション能力の乏しさは本校児童が抱える大きな課題として位置付けている。全教育活動において、教職員が児童の表現力および社会性を磨き、資質を向上させる意識を高く持ちながら努めていく必要がある。 ●　No.11の「体力づくりに取り組んだ」は、教職員、児童の評価が高い。東温市の陸上大会、また、校内マラソン大会やなわとび大会に向けて、熱心に練習に取り組んでいることへの評価であると言える。しかし、保護者の評価は昨年同様に低い。社会全体でも課題とされている子どもの体力低下の抑止に向けて、体育科授業の充実や体力向上につながる環境、行事等の整備など、引き続き学校でも努めていく必要がある。また、家庭の低評価につながっている、生活の中での運動の習慣化を充実させるべく、児童の生活習慣における課題を明確にし、家庭と連携・協力を図りながら改善していく必要がある。	○　「元気モリモリ貯金」などの学校の伝統的になっている取組は継続してほしい。 ○　小規模校でコミュニケーション能力の育成をどうするか。一人一人の子どもが自尊感情をしっかり持ち、自分自身を好きでいることが大切だと思っている。ここの部分がしっかり育っていれば中学校に行っても、大勢の中でもやっていけると思う。 ○　体力つくりについて、保護者の評価が低いのに、少しの雨でも車で送る保護者がいる。体力つくりを考えたら歩かせた方がよい。１年生はよく歩いている。 ○　「家庭学習の充実」及び「体力つくり」について、子どもの家庭学習や体力つくりは、家庭における生活習慣の見直しなど保護者の役割も大切だと思う。引き続き保護者に対して啓発し、保護者の意識を変える取組をお願いしたい。
	仲間づくり・集団づくり	9	コミュニケーション能力の育成を図る年間の計画をもとに学級活動や学級経営、キラリン班活動等全校的な活動を充実してよりよい集団づくりに努めた。	3.4	3.5	3.6		
	心と体の健康づくり	10	元気モリモリ貯金を通して「早寝・早起き・朝ごはん」の定着、学校保健委員会の開催など年間を通した心の健康づくりに取り組んだ。	3.4	3.4	3.3		
	体力つくり	11	体育の授業を充実させたり、大会に向けた水泳練習、陸上練習、マラソン練習等を実施したりすることにより、体力づくりに取り組んだ。	3.6	3.5	3.1		
特別支援教育	特別支援教育の充実	12	校内の支援体制を充実し、全教職員や専門家との連携のもと、一人一人の教育的ニーズに応じて、必要な支援を行った。	3.7	3.3	3.5	○　本校は少人数のため、支援員や校務員など、全職員が声を掛け、見守り育てている。 ●　「ニーズに応じた適切な支援」については、保護者から肯定的な評価が高いものの、「できていない」という意見もいただいている。特別支援教育における知識及び指導スキルを磨いていく努力を組織的に進めたり、環境を整えるための協力を市に仰いだりするなどして体制を整えていきたい。	
安全・安心な教育環境の整備	**登下校の安全確保**	13	**登下校の安全やマナーに対する指導、家庭・地域と連携した見まもり活動等の充実に努め、安全な登下校の奨励に取り組んだ。**	3.4	3.7	3.7	○　「安全・安心な教育環境の整備」については、評価が高い。学校や家庭、地域の安全への取組が保護者や子どもにも伝わっているという表れであると捉えており、大変ありがたい。登校の際には、保護者や地域の方が見守りをしてくださっており、御協力に感謝したい。 ●　昨年、計画通りに実施できていなかった避難訓練を概ね実施することができた。引き渡し訓練、地震と火災に併せて新規訓練として土砂災害の避難訓練を実施した。どれも確実に実施することができたが、引き続き教職員が今までの経験を生かすとともに、研修などを通してあらゆる有事に対して備えを怠らないこと、また、どんなことがあっても子どもたちの命を守ることが第一であるという意識を持ち続けたい。 ●　登下校は、保護者や地域の方が見守りをしてくださっているが、その人数も減少傾向にある。本校の通学路は、ほぼ１本道なので今のところ対応できているが、もう少し人数が増えると安心である。引き続き、地域の方々へお願いをしていきたい。	○　今年度は地域の方々が登下校の見守りにも力を入れてくださっていると思うが、児童がそれを十分に感じ取り、昨年度に比べて児童の評価も保護者の評価も高くなったのはよい結果だと思う。 ○　家庭と学校との意思疎通を続けていくことが一番大切である。地域の方々に見守られている学校としては、一番大切なことであることを忘れないでほしい。
	防災教育の充実	14	避難訓練や学級活動、教職員研修を充実し、自ら判断し行動し、お互いが力を合わせて命を守り、困難を乗り切ることができる力を育むよう取り組んだ。	3.4	3.8	3.6		
	危機管理意識の高揚	15	**毎月の「にしだにハート＆はーと」や「安心・安全週間」を中心に、教職員の危機管理意識を高め、教育環境の整備をするとともに、児童の危機意識の高揚に努めた。**	3.3	3.8	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	16	コミュニティスクールの推進の基、地域との協力体制を充実し、地域・家庭と息の合った教育活動の充実に努めた。	3.5	3.8	3.4	○　学校では、児童の様子を積極的に家庭にお知らせをしたり、教育活動等について校報や学年便り、ホームページなどを活用して伝えたりするようにしている。特にホームページでは、ほぼ毎日更新を行い、タイムリーに学校の様子や、県、市からの情報をお伝えするようにしている。より充実した内容になるよう努めていきたい。 ●　保護者が児童と一緒に学校だよりやホームページ等を閲覧し、様々な情報を共有してもらえるように呼び掛けていきたい。 ●　新入学児家庭の空き家探しや学校環境整備などにおいて、コミスクの特性を生かした実践が実現し、学校運営改善において効果があった。今まで以上に学校運営協議会との連携を充実させていくとともに、保護者へもコミスクの仕組みや実践の報告などを周知していき、学校、家庭、地域の連携をさらに強めていきたい。	○　小規模、少人数という特性を活かした学校運営ができていると思う。 ○　参観日に行けたのはよかった。幼稚園のときから見ている子どもの成長が見られ嬉しかった。反面、課題がまだまだ解決できていない部分も見られ、幼小連携の質の向上も必要だと思った。
	情報の共有化	17	児童について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等について、校報、各便り、HP等を活用して地域・家庭との情報の共有化に努めた。	3.9	2.9	3.3		
特色ある学校づくり	**「緑の少年隊活動」等を生かした地域とともに歩む教育**	18	**毎朝のボランティア活動を始めとする緑の少年隊の活動や各教科等での学習を生かし、自他の命を大切にしたり、身近な環境を大切さに気付かせたりするよう取り組んだ。**	3.7	3.7	3.6	○　No.18「自他の命の大切さ」については高評価であった。特に緑の少年隊の活動は本校の特色であり、他の学校ではできない活動が充実している。児童も様々な活動を通して、環境や生命の大切さに気付くことができている。昨年度実施できなかった地域の協力を得て行う、田植えと稲刈りの体験は大変貴重であった。来年度へ向けて、お世話をいただく方々とのつながりを大切にしていきたい。 ●　No.19「自然体験教室」については、昨年に引き続き実施できなかったため評価を行っていない。数年前からは季節に合わせ、ホタルの観察やそうめん流し、みそ作り、餅つき大会などの内容を行ってきた。多くの子どもや大人が参加し、充実した活動になっている。来年度、限られた条件の中で、よりよい活動になるよう実施回数や内容を検討しながら計画を立てていきたい。	○　緑の少年隊活動は、子どもたちにとって大切なことでなので、今後も続けていってほしい。
		19	**学校と家庭と地域とが一体となって取り組む自然体験教室の活性化に努めた。**					
施設・設備の充実	教育機器の有効活用	20	一人一台タブレットパソコン等、ＩＣＴ機器の有効活用に努めた。	3.6	3.8	3.5	○　文部科学省が推進する「ギガ・スクール構想」に伴い、すべての児童に一台ずつタブレットパソコンが支給された。授業における復習や調べ学習に活用しながら、知識や技能を磨くこと、思考力を磨くことに役立てている。今後、家庭への持ち帰りやコミュニケーションツールとしての活用方法を模索するとともに、教職員の指導力や環境を整えていく準備が必要である。 ●　学校環境を整えるため、教職員と子どもたちの手で草花等を植え、大事に育てている。また、夏休みには奉仕活動で溝掃除や草刈りなど、美しい環境を整えている。ただ、小規模校のため多くの校務を抱えている教職員だけでは人数や時間も限られている。より充実した環境を整えていくためには人的管理の面で潤いに欠けたところがある。	○　利便性を追求する裏で、出てくる危険性などの課題についてしっかり向き合い、対処できるように準備を進めていかなければならない。タブレットを持ち帰らせるのならば、情報モラルの面や扱い方についてしっかり共有することが必要である。 ○　除草作業等の環境整備は、現状の教員や保護者の人数では負担が大きいと思われるため、学校運営協議会を通して地域の方々に協力求めてもよいのではないか。
	学習・生活環境充実への取組	21	人的管理・物的管理・事務処理に留意し、学校全体が、調和と潤いのあるよりよい教育環境となるよう取り組んだ。	3.1	3.4	3.4		

※　ゴシックは学校における重点項目、アンダーラインは重点項目に関連する内容